

注意点1



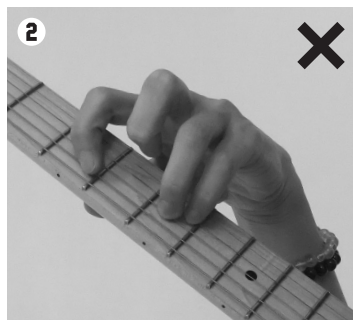
左手

**左手を巧みに使って
余弦を完全にミュートせよ**

カッティング・フレーズでは、左手で的確にミュートを行ない、押弦している音以外の弦も同時に弾く【註】ことでフレーズに勢いを付けよう。その際、ブラッシング時に音をしっかりと切り切るのももちろんのこと、さらに不要弦のミュートにも気を遣わなくてはならない。このメイン・フレーズのような3音のパワー・コードを押弦する際には、人差し指を寝かせて高音弦を、中指を伸ばして低音弦をミュートすると良い(写真①)。指を立てて押弦すると、余弦を誤って鳴らしてしまうので注意すること(写真②)。左手でしっかりミュートを行なって、力強いサウンドを生み出そう!



人差し指を寝かせて低音弦を、中指を伸ばして6弦をミュートする。こうすることで、6本弦をストロークできる。



指を立ててしまうと、余弦のミュートができない。ノイズばかりの演奏になってしまうので注意しよう。

注意点2



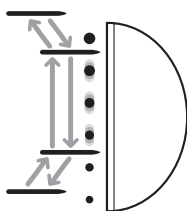
右手

**キレを生み出す秘訣は
大きなストロークにあり!**

注意点1でも解説したが、このメイン・フレーズのようなコード・カッティング・フレーズでは、押弦している音以外の弦も同時にピッキングした方が良い。TAB譜の表記どおりに3本弦のみを弾くと、どうしてもサウンドが弱々しくなってしまうのだ(図1-a)。したがって、余弦のミュートを正確に行ない、6本弦すべてをストロークしよう(図1-b)。このように弾くと、余弦のブラッシング音が加わるので、エッジの利いたキレのあるサウンドを生み出すことができる。左手のミュートを駆使して、隣接弦も弾いてしまうほどの大きなストロークでプレイしてほしい。

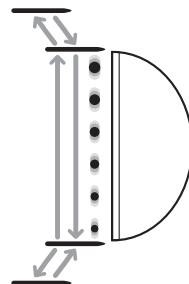
図1 コード・カッティング時のストローク幅

(a) ダメなパターン



3本弦だけを狙うと、サウンドが弱々しくなる。

(b) 良いパターン



6本弦すべてをストロークすることで、力強いサウンドを生み出せる。

注意点3



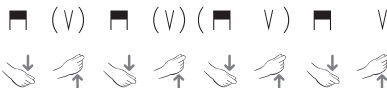
理論

**4分音符&4分休符も
8分音符主体で取ろう!**

このメイン・フレーズは8ビートなので、8分音符を土台にしてリズムを取らなくてはならない。したがって、4分音符や4分休符も8分音符2個として捉えることが大切だ(図2)。4分音符の部分で腕の振りが止まってしまうと、リズムが乱れたり、グルーブ感が損なわれる原因にもなるので注意すること。また、ストロークもヒジを支点にして、大きく振るようにしよう。単音での速弾きばかりを練習していると、スピード感を重視するあまり、手首を支点にしたピッキングになりがちだ。しかし、このようなコード・カッティングは、手首を支点したピッキングで弾くとノリがウマく出せないので気を付けよう。

図2 メイン・フレーズのリズムの取り方

・1小節目



4分音符&4分休符でも8分音符で腕を振り続けよう!

【押弦している音以外の弦も同時に弾く】グルーブ感を生み出すためには、大きなストロークで弾くことが大切。左手のミュートを的確に行なうことで、大きなストロークでも単音カッティングを演奏することだってできるのだ!